



# 消費者市民社会をめざし地域に根ざした活動や

## 消費者力アップの大切さを学ぶ



### 埼玉県生協役員研修委託事業 これからの消費者市民社会をめざして ～消費者問題から消費者政策・消費者法を考える～

生協・連合会の28人(未加盟生協含む)が参加し、弁護士の押師氏を講師に学習会を行いました。消費者庁・消費者委員会の創設は数十年の消費者の夢であったこと、その経緯や役割と現状、消費者問題に関する具体的な課題、そしてこれからの消費者市民社会を目指すためには、地域に根ざした活動が消費者市民を育てること、地方消費者行政の重要性を認識すること、消費者による消費者行政の監視・協働をすることが大切だと話されました。



地域に根ざした活動や地方消費者行政の充実が大切と話す 講師 押師 氏

## 2009年度第2回県内消費者団体交流会 活動交流から元気とパワーを充電



杉戸町くらしの会の手芸品を展示、その中から手作りカードとようじケースをプレゼント

埼玉消団連の呼びかけで、県内の消費者団体やくらしの会のネットワークを強め、県や市町村の消費者行政の充実をはかることを目的に年2回開催しています。今回は、14団体32人が参加し「お話ししましょう! 聞いてみましょう!」をテーマに各団体の活動の様子や悩みなどを中心に活発に交流を行いました。「会員を増やすには、活動費用、広報、講演会の講師」などについて意見交換した後に県消費生活課より消費者行政への協力の感謝と活動のヒントをいただき、パートナーシップとネットワークの積み重ねが大切なことを学びました。

## 平成21年度埼玉県消費生活功労者表彰 会員生協の3生協3人の方が受賞



消費生活への貢献が認められ 上田県知事と記念撮影

消費者団体・生協役員17人を含む受賞者の表彰式が埼玉県知事公館で行われました。埼玉県の消費者行政充実強化の取り組みを紹介するとともに、上田県知事は、「日頃からの消費者行政への協力への感謝と今後も消費者被害防止や解決へお力添えを」とあいさつされ、受賞者を代表してドゥコープの針生理事が謝辞を述べました。

## 社会福祉功労者表彰 埼玉県消費者団体連絡会が受賞



これまでともに積み重ねてきた活動が認められた消団連幹事団体のみなさん

「食の安全・安心」や「消費者運動」の推進のために貢献したとして、埼玉県消費者団体連絡会が表彰され、上田埼玉県知事より伊藤恭一氏(埼玉県消費者団体連絡会代表幹事・事務局長)に団体の受賞代表者として表彰状が授与されました。

## 生協ネットワーク協議会第4回協議会 牧場体験から地産地消と牛乳の消費を考える



牛乳から作ったおいしい手作りバター はじめての給餌に感謝

埼玉県の地産地消や牛乳の消費拡大について交流するために上尾市の榎本牧場の見学を行い21人が参加しました。牛の一生の話や搾乳や給餌等の牧場体験とバター作りを行いました。また、生産者からの牛乳の話から地産地消の大切さについて学びました。

## 越谷市消費生活研究会・NPO法人埼玉消費者被害をなくす会共催 消費者の目が社会をかえる!

～産止対象となる景品表示法と特定商取引法とは～学習会を開催



17人参加

消費者の目線が大切と話す長田弁護士

講師の長田弁護士は「2年半前に消費者契約法が改正され適格消費者団体に産止請求が認められましたが、法改正により今年から景品表示法と特定商取引法の分野に広がりました。9月に消費者庁が創設されましたが、社会がすぐ変わるわけではなく、被害をなくすためには消費者の目線が大事です。安心してらせる社会にしていきたい」と話されました。

### コープデリ宅配車両のCO2排出量削減のために、バイオディーゼル燃料(BDF)トラックを導入

さいたまコープ

10月28日、コープデリ大宮センターにおいて、コープネットグループでは2年目、さいたまコープで初めてのBDFトラック導入を記念したセレモニーを開催し、BDFの説明会とBDFトラックの出発式を行いました。埼玉県やさいたま市、NPO法人環境ネットワーク埼玉、関東バイオエナジー(株)をお招きし、さいたまコープ理事など26人が参加。さいたまコープでは、2009年度中にBDFトラック22台を順次導入する予定です。  
\*BDF燃料は店舗などから出る「使用済みみから油」を精製しています。

### 広がる県内生協の多彩な活動・交流

この紙は再生紙を使用しています

### 生産者とともに収穫と登録目標達成を喜ぶ会

生活クラブ生協

10月23日、山形県遊佐の米の生産者をむかえ、交流会を開催しました。遊佐のお米の登録が目標に対し超過達成したことを喜びました。生産者の思いを伝え、いつでもどこでも登録を呼びかけたり、ブロック対抗のチラシコンテストを開催しました。生産者からは「組合員の熱意にふれ、本当に支えてもらっていると実感することができました」とコメントをいただきました。生産者と組合員、お互いの顔が見える良い関係が保たれていることを、再確認しました。

今年も若い生産者も参加

チラシコンテスト優勝の「おこめびとだより」

### 青木農園りんご収穫祭

埼玉県勤労者生協

11月14日、組合員とその家族は、北アルプスの山々を望む志賀高原にある青木農園でりんごの収穫を祝い、生産者と交流しました。青木農園は「無化学肥料、減農薬で『安心・安全・おいしい』りんごを作り続けて産直35年」の歴史ある産地です。「もぎり、かぶりつく!心地よさは都会では味わえない贅沢。『大家族の素材で温かいうちで楽しむのが嬉しい』と組合員には好評でした。

かぶりとかじったところから、蜜がしたたり落ちるほどおいしいりんご

### 学習会「魚料理のメニューヒント」一汁二菜～もっと魚を食べて自給率をあげよう～を開催

ドゥコープ

11月17日、すべす・ドゥで、テーマグループ「PLA」が、「もっと魚を食べて自給率をあげよう」をテーマに学習会を開催しました。16名の組合員が参加し、パルシステムのすすめる日本型食生活や水産事業への取り組みについて学びました。学習会では、日本の水産物の現状やパルシステムのPB商品「生からつくったさんま三枚おろし」の特徴を、原料である釧路産さんまの漁獲風景などを撮影したDVDの鑑賞を交えて説明しました。

### 「埼玉を歩いて世界の子どもにワクチンを!」400人を超える参加者がウォーキング

医療生協さいたま

11月に全県5カ所でウォーキングイベントを行い、全体で432人の参加がありました。参加費の一部をワクチンの寄付にあてるとし、新聞折込チラシやインターネットで広く参加を呼びかけました。雨模様にもかかわらず、多くの参加者が集まり、「ウォーキングでワクチンの寄付なんて、さすが医療生協!」という声で寄せられました。ワクチン寄付は約14万円でした。ご夫婦や親子連れ、学生、はじめて医療生協を知った人など、参加の輪が広がりました。

### お米で育てた鶏の卵で、食料自給率向上に貢献

コープネット事業連合

「稲穂のみのりたまご」は、飼料に国産米(飼料用米)を10%配合して育てた鶏卵です。2009年度産の飼料用米の必要量が確保できたことから、昨年12月までに全生協で取り扱いを始めました。週3万パックを供給し、コープネットで取り扱う鶏卵の約6%を占めるまでに広がっています。飼料用米で育てた豚肉「お米そだちのみのりぶた」とともに「稲穂のみのりたまご」を水田農業の維持・発展と食料自給率の向上に貢献する商品の柱として、生産と供給の拡大を進めます。

### お父さんたち手作りのウッドデッキ

子どものその保育生協

10月から11月の休日、園児のお父さんたち(組合員)のボランティアで、ウッドデッキ作りが行われました。今までコンクリートだった保育室のベランダを冬も遊べるようになり取り組みました。指揮する棟梁は本物ですが、あとはみな素人のお父さんたち。最初は怪しい手つきでしたが、回を重ねると要領をつかみ、電動工具もさまになってきました。完成の日、大きな達成感とともに「これで終わりと思うと寂しいです」という声も聞きました。子どもたちは今、できたウッドデッキの上を走り回ったり、給食を食べたりしています。

### 地域と協力して埼玉大学饅頭を開発

埼玉大学生協

埼玉大学創立60周年を記念して、大学の魅力づくりに貢献することを目的に、オリジナル商品開発を始めています。地元で評判の洋菓子店「ポンドール」さん、老舗菓子店「足立屋」さんと協力して「さくらフリーバイ」[埼玉大学饅頭]を開発。包装紙は、どちらも美術部3年生が担当。入学式ではじめて販売しましたが、保護者にも大変好評で、用意した1,000箱を20分で完売しました。